
井戸の底にいる人

秋乃時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

井戸の底にいる人

【NZコード】

N7154D

【作者名】

秋乃時雨

【あらすじ】

夏になるたびに池は干上がり使われなくなつた井戸が現れる。近づいてみてみたいが地面がぬかるんで近づけない。ある猛暑の夏、井戸の周りは完璧に干上がり近づけるようになつていた。

（この物語は、筆者個人の経験を元にした小説です。）

夏になると池は干上がり、井戸が現れる。

近づいて見てみたいかったけど、まだ地面がぬかるんでいたから、遠くで見ていたことしかできなかつた。

おじいさんから、ここにある井戸の話を何度も聞いている。
おじいさんがまだ子供だった頃、この井戸は少しの間だけ村を支えていた。

水道が通ると同時に、井戸は使われなくなり池の中へ消えた。
夏になる度に井戸を見に行つた。

中々井戸は姿を現さないが、夏休みの中頃を過ぎると姿を現す。
でも、近づくことは出来ない。

何年たつても、何年たつても近づくことは出来なかつた。

小学校最後の夏休みは酷い猛暑に襲われた。

次々とダムが干上がつていった。

池も泥濘一つなく干上がり、井戸に近づくことが出来た。
高鳴る思いに任せて井戸に近づく。

真つ暗で底が見えなかつた、でも干上がり水はないと思つ。

バシヤ

と、水の中で何かが動く音がした。

まだ底の方に水が残つてゐるのかもしれない。

バシヤ

また何かが動いた。

誰かいる。でも誰が？

真つ暗な井戸の底を見る、でも何も見えない。

バシヤ

得体の知れない不安に襲われた。

急いで井戸のそばから離れる。

池から上がって井戸を見る。

井戸から水の中でもかが動く音はない。

誰かがいた。

深い深い井戸の底に誰かいた。

暗い暗い井戸の底に誰かいた。

誰かがいて動いていた。

踵を返して走って池から離れる、もうあの井戸に近づくことはな

い。
バシヤ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7154d/>

井戸の底にいる人

2010年12月27日02時46分発行